

かやぶきの里はエコビレッジのルーツ

京都から車を走らせること約2時間の山里に、日本古来の農村風景と自然景観がマツチした民家集落が残っている。豊かな山の緑と綺麗な水の流れを持つ、自然美豊かな人口約5000人の農山村地域「美山町」だ。

ここには、現在日本に残るかやぶき集落としては3番目に大きな京都美山の「かやぶきの里」がある。かやぶき建築数は岐阜県白川村荻町、福島県下郷村大内宿に次ぐもので、伝統工法による建築物群を含めた歴史的景観の保存度への評価も高く、現在文化庁の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、かやぶき屋根の古民家が保存されている。それにしてもここはさすがに「日本一の田舎」を自称するだけのことはあるよ。ほんとに田舎なのだ。

京都市内からバスを3本乗り継いでやっとたどり着く。当然、近くにコンビニなんか見当たらない。温泉が無いため旅行者には物足りないところだけれど、そのおかげといっては何だが、観光地化されずに媚びたサービスをしないところが良いのである。特産品店には地元産物だけが並び、無添加で加工された山菜や佃煮などが印象的だった。お隣で作っている出来立ての雑穀素材の饅頭やお餅も、素朴でおいしい。

宿泊するならば、かやぶきの里には3軒の古民家民宿があり、素朴な地元料理で迎えてくれる。お宿の主人いわく「ここは日本で初めての農家民宿」のこと。なるほど、お宿（といっても古民家そのもの）の前には畑があり、裏山がそびえ、そして綺麗な川の流れがある。自家栽培の有機無農薬野菜と鮎や山菜や猪鍋などの季節

農的暮らしをデザインしよう 3



かやぶきの里 集落の町並み



資料館では昔のままの室内を見学できる

エコすた とは

エコロジー、エコノミー、スタンダード、ライフスタイルなどを合わせて僕たちがつくった造語です。
健康な住まいは安全な食品と変わらないというコンセプトのもと、エコハウスづくりのための自然建材を扱うエコショップの店名にもなっているのです。



エコデザイナー 西條 正幸

1960年伊達市生まれ。札幌を中心にナチュラルスタイルの店舗、住宅の空間デザイナーとして活動。自然素材にこだわった新築、リフォームの設計、施工会社「ビオプラス西條デザイン」代表取締役。自然派生活提案「エコすた」店主。

「自然素材デザイナー西條正幸のブログ」もヨロシク!



地域のものだけを販売する土産物 販売所

民宿「とみ家」には名物アユのぼりがあがる



資料館内には古い道具類も展示している



清流「由良川」ではアユ釣りの人影が見られた



小石がゴロゴロとした土質が特徴の畑



a ウサギの糞コンポスト

b 小さなビオトープ池

c 手作りの汚水浄化用バイオジョフィルター

d 甘い実がなるクワの木

e キウイフルーツの木

f 2種類のみミズコンポスト

g 植栽のマルチと獣よけのタラの枝

h 雨水をためて散水に使うための貯水タンク

伏古菜園プロジェクト
イメージスケッチ

計画地:札幌市東区伏古

Made in Forest

菜園生活プロジェクト始まる！

北海道の木の家+畑のある暮らし

都会のど真ん中にプチ田舎暮らしを楽しむ、
有機菜園のある住まいです。
北海道の山の木と、自然素材をたっぷり使った
ナチュラルハウスに住む。
循環を感じながら
五感にやさしい暮らしを始めましょう。



菜園生活プロジェクトは
www.saijo-d.com

※菜園生活プロジェクトについての詳しい情報は、195PのGOOD NEWSに掲載しています。

BiO+
株式会社バイオプラス西條デザイン

有限会社 バイオプラス西條デザイン

本社:〒002-8081 札幌市北区百合が原4丁目8-1
Tel.011-774-8599 Fax.011-774-8581

伊達支店:〒052-0014 伊達市舟岡町50-28
Tel.0142-22-0138 Fax.0142-22-0139

2008年4月(有)西條インテリアデザインは(有)バイオプラス西
條デザインに社名を変更いたしました。Bioはドイツやオースト
リアのオーガニック食品に表示されるラベリングとして身体や
健康にやさしい自然派商品の総称を意味しています。僕たち
が目指すバイオデザインはこの精神を受け継ぎ厳選された自然
素材でつくる、さまざまな形のナチュラルスタイルを提案します。

アースガーデンでパーマカルチャー体験

今回の旅のもうひとつの目的は、パーマカルチャーのテクニックを利用して実際に理想の住まいを实践している、植月さんご夫婦主宰の「アースガーデン」で、スタディツアーに参加することなのだ。京都から車を走らせてかやぶきの里を目指す、集落のすぐ直前、田園風景の中にぽつんと建つ民家がある。

ここは700㎡の敷地に食べられる栽培種を中心に、野菜・果樹・山野草・キノコ・水生植物・ハーブなどを150種類生育しているほか、ウサギやカモの生育区域もある。小さなビオトープ池や、汚水の浄化システム「バイオジョフィルター」の実験、雨水利用などを取り入れたパーマカルチャーガーデンに囲まれて、1階はスローカフェ、2階がスタディツアーの学習室になっている。住まい兼用の建物は、地域の木材と自然素材で建てられているのだ。

スタディツアーは、参加者に合わせていくつかメニューが用意されている。僕は朝から夕方までのほぼ1日をプログラムしてもらった。午前中はパーマカルチャーの講義、カフェでスローランチをいただき、午後からは外へ出てパーマカルチャーガーデンツアーといった、目いっぱいメニューをこなす充実の1日を体験した。

植月さんは、2003年に美山町へ移住する以前は、都心のマンション住まいをされていて、環境共生型のバルコニーガーデンを手がけ、環境教育やパーマカルチャーの食べられる庭づくりを实践、提唱されてきた。当時から力を入れてきたことは、家庭の生ゴミを堆肥化するコンポストを利用したベランダガーデン。アースガーデンにもミミズコンポストが設

置されていて、コンポスト作りなどのワークシヨップメニューも用意されている。僕もミミズコンポストを見るのは、この日が初めて。コンポスト用のミミズが釣り餌でおなじみのシマミミズであることは、あまり知られていない。釣りで残ったミミズでミミズコンポスト作りなんて洒落ているかもしれないね。ミミズをベットにして、畑の堆肥作りにチャレンジしてみる？

自然がいっぱいで広い土地を手に入れやすい北海道には、パーマカルチャーガーデンが似合うなーと再確認する旅でもあった。

田園風景にだけ込むアースガーデン



カモの小屋

(上) 1階室内はスローカフェになっています

(下) 2階はスタディツアーの
レッスンルームとして利用

ヒモを使った簡単な壁面緑化



えこすた会員募集中！
会員になるとエコ情報季刊誌
「えこすた通信」をお届けします。

※解説…パーマカルチャーとは

パーマメント(持続可能)・アグリカルチャー(農業)・カルチャー(文化)をかけ合わせた造語である。1970年代にオーストラリアで生まれた持続可能な生活環境をつくるデザインシステムのことで、自給自足を目指した有機菜園や果樹園、家畜の飼育を住宅の周辺に配置した農的暮らしのスタイルが特徴である。僕たちのエコ情報季刊誌「えこすた通信」でも、パーマカルチャーについて毎回紹介。